

令和8年度 道徳教育の全体計画

札幌市立美香保中学校

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学校教育法
- ・学習指導要領
- ・教育委員会の教育目標

目指す学校像(根幹)
ばらばらで一緒
 ～みんながみんなの中で自由に自分らしく生きられる学校～

- ・時代や社会の要請や課題
- ・学校や地域の実態と課題
- ・教師や保護者、地域の願い
- ・生徒の実態や発達の段階

特別活動

自他の個性や立場を尊重しようとする態度、義務を果たそうとする態度、よりよい人間関係を深めようとする態度、社会に貢献しようとする態度、自分たちで約束をつくって守ろうとする態度、より高い目標を設定し諸問題を解決しようとする態度、自己のよさや可能性を大切に集団活動を行おうとする態度などの道徳性を養う。

■ 学級活動

学級を居心地の良い空間とするために、**当番や係など生徒の自治的な活動の充実**を図り、道徳性を養う。

■ 生徒会活動

学校におけるよりよい生活を築くために、問題を見だし、これを自主的に取り上げ、**協働的に課題探究(Breakthrough)**していく**自治的な活動の充実**を図り、道徳性を養う。

■ 学校行事

美中祭や合唱祭、旅行的行事、美中オリンピック、職場体験などの社会体験、**パートナー校児童や地域の人々などと触れ合う体験**を通し、道徳性を養う。

生徒指導

■ 相互承認の感度の醸成

- ・ **発達支持的生徒指導**の充実を図り、自己存在感、自己肯定感、自己有用感を味わわせ、**自己承認**の感度を高める。
- ・ 他者のよいところを認めたり、他者との関係の中で自己の存在を価値あるものと受け止めたりする**他者承認**の感度を高める。

■ いじめの防止

- ・ いじめ防止対策推進法に基づく**迅速かつ組織的な対応**を徹底する。
- ・ 道徳教育や道徳科を通し、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

道徳教育の重点目標

A. 自分自身を大切にし、**粘り強く挑む力**を育む。
 B. 相互承認の感度を醸成し、**心をつなぐコミュニケーション力**を育む。
 C. 将来の生き方を考え、**主体的に社会の形成に参画する**態度を育む。
 D. かけがえのない**生命を尊重**する態度を育む。

各学年の重点目標				
	第1学年	第2学年	第3学年	
A の 視 点	★ 重点項目 「4 希望と勇気、克己と強い意志」			
	自分の弱さを克服し、中学校生活における身近な目標に向かって、粘り強く努力しようとする実践意欲を育てる。	困難や失敗に直面しても、不屈の精神をもって目標の実現に努め、自らを律して着実に物事をやり遂げようとする態度を育てる。	自己の可能性を信じ、人間としての高さを目指して自ら高い目標を設定し、希望と勇気をもって未来を切り拓いていこうとする考えを深める。	
	B の 視 点	★ 重点項目 「9 相互理解、寛容」		
		自分の考えを相手に伝えると同時に、相手の言葉にも謙虚に耳を傾け、互いの違いを認め合おうとする態度を育てる。	多様な見方や考え方があつて理解し、広い心をもって自分と異なる意見も尊重し、人間関係を深めようとする意欲を高める。	自分の考えを、責任をもって伝えた上で、他者の立場や意見を深く尊重し、対話を通して互いを高め合いながら共に生きようとする考えを深める。
C の 視 点	★ 重点項目 「12 社会参画、公共の精神」			
	社会の一員としての自覚を持ち、身近な学級や学校生活をよりよくするために、自分の役割を果たし、進んでみんなのために役立つようとする態度を育てる。	公共の精神を尊び、地域社会の一員として、社会のルールやマナーを守るだけでなく、よりよい社会を築くために主体的に関わろうとする実践意欲を育てる。	民主的な社会を支える公共の精神の大切さを深く理解し、よりよい社会の実現を目指して、自らの責任を自覚し、主体的に社会に参画し貢献しようとする考えを深める。	
D の 視 点	★ 重点項目 「19 生命の尊さ」			
	生命が先祖から自分へ、そして未来へとつながる連続性をもっていることを理解し、自他の生命をかけがえのないものとして尊重しようとする態度を育てる。	生命には限りがあることを重く受け止め、与えられた生命を精一杯に生き抜こうとする意志を固め、自他の中にある生命の重みを深く尊重する態度を深める。	生命の尊厳について、科学的な知見や社会的な課題も含めて多面的に考え、人間として生命を慈しみ、互いの生を支え合っていこうとする信念を形成する。	

道徳科

考え、議論したくなる道徳科の授業の推進

■ 心理的安全性の構築

- ・ 一人一人がもつ多様な道徳的価値を自由に表出することのできる安全・安心な学習環境を、生徒と教職員が一体となり全校で構築する。

■ 当事者意識の喚起

- ・ 生徒の実体験などをもとにイントロダクションを工夫し、“そもそも”という物事の本質を問うことにより、生徒の**当事者意識**を喚起する。

■ 共通解から納得解を得る探究活動の重視

- ・ 協働探究…他者との議論を通し「**共通解**」を見出す。
- ・ 個別探究…「共通解」をもとに、自己との対話を通し「**納得解**」を見出す。

■ 道徳実践力の育成

- ・ 「納得解」をもとに、**主体的な社会参画**についてリフレクションさせ、道徳実践力を養う。

各教科

国語	社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高めるとともに、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。
社会	よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
数学	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養う。
理科	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
音楽	音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育む。音楽による豊かな情操を養う。
美術	美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、心豊かな生活を創造していく態度を養う。
保健体育	健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。
技術・家庭	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度を養う。
外国語	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

総合的な学習の時間

「**ウェルビーイング**」をテーマに、課題探究的、教科横断的な学習を通し、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

環境の整備

■ 多様性の包摂

- ・ 子どもの声を聴き、子ども一人一人の多様なニーズに応じた学びの場・居場所の提供。
- ・ **みかほらしいインクルーシブ教育**の充実。

■ 教職員の資質向上

- ・ 「**サキドリ事業**」を活用した、校内研修会やパートナー校との合同研修会の計画的実施。

「本物の経験」の創造

■ 協働探究の土台を築く「サークル対話」

- ・ 単元の山場として行う「**コア・サークル対話**」と日常的に行う「**ステップ・サークル対話**」のスパイラルにより、協働探究の土台を築く。

■ 多様な道徳的価値に触れる「ごちゃまぜ」

- ・ 異学年や地域の人々との交流を通し、多様な道徳的価値に触れ、**相互承認の感度**を醸成する。

家庭・地域等との連携

■ 社会に開かれた教育課程

- ・ 道徳教育に関する情報を積極的に発信する。
- ・ 道徳科を中心に、積極的に授業を公開する。

■ みかほらしいコミュニティ・スクール

- ・ **みかほっ子応援団**を活用し、多様な人々のかかわりの中で生まれる「**本物の経験**」を通して、子どもと社会をつなげる。